

日本応用経済学会ニュースレター

Japan Association for Applied Economics Newsletter

第17号 2025年9月

日本応用経済学会事務局：〒819-0395 福岡市西区元岡 九州大学経済学部

TEL/FAX：080(5321)7299

E-mail: jaae@jaae.org

<http://www.jaae.org/>

目次

会長挨拶

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

学会誌への投稿について

紹介！研究室

編集後記

2024年度決算資料

2025年度予算資料

I. 会長挨拶

日本応用経済学会 会長
長岡貞男

さる 6 月に日本応用経済学会の結成 20 周年を記念する春大会が、兵庫県立大学で成功裏に実施出来たことに、会員皆様に感謝を申し上げます。特に、大会実行委員長である開催校の大住康之先生、プログラム委員長の大森達也先生をはじめとした、大会実施の関係者の方々には大変お世話になり、ありがとうございました。示唆に富む基調講演、そして何よりも、若手会員を含め、多くの会員の先生が発表者、討論者として参加いただいたことが、大きな成果だと思います。

また、韓国通商経済学会(KEBA)からは 4 名の先生に参加いただき、国際交流に加えて、英語セッションの充実にも貢献いただきました。総会で報告を致しましたように、韓国の応用経済学会(KAAE)との交流は先方の事情から、当面中断することとなりましたが、早期再開となることを期待しております。

学会誌には、時間ラグはありますが、JST のサイトで、現在抄録まで直接アクセス可能であり、また論文自体も PDF もダウンロードできるようになっています。学会誌掲載論文の中には、多数回検索対象になっている論文もあるようで、学会誌のオンライン化は社会の幅広い人々からの研究成果へのアクセス拡大に大きな効果があるようです。AI による LLM(大規模言語モデル)では、PDF 化された論文も検索対象となっていますので、紙媒体にオンラインを加えたことの効果は今後更に拡大すると考えられ、焼田前会長等が提案された、学会誌即時オンライン化の可能性も今後追求していきたいと思っております。

応用経済学会誌の学会創立 20 周年記念号の発刊のため、「応用経済学の展望」(仮称)として、学会賞の過去からの受賞者に小論文を寄稿していただくことをお願いし、受賞者ほとんど全員の方に了解を頂きました。(a)各先生が行ってこられた研究の軌跡を振り返りながら、優れた研究への工夫、(b)注目すべき最近の応用経済学研究の事例の紹介、(c)現在経済政策の課題となっている問題の経済分析と提言など、今後の応用経済学研究に示唆を与える寄稿をお願いしております。応用経済学への関心と学会誌の認知が高まる契機になることも期待しております。

今年の秋学会は北九州市立大学、日程：2025 年 11 月 8 日(土) 9 日(日)となっており、学会員諸氏のご参加を期待して、挨拶を終わります。

II. 理事会報告

II-1. 2024 年度第 2 回理事会報告

日 時：2024 年 11 月 9 日(土) 10 時 30 分～
11 時 10 分

会 場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
B 号館 102

出席者(敬称略)：長岡、木原、福重、永星、藤田、大住、大坂、小川、内藤、野崎、坂上、渡邊、三浦、堀、宮澤、柳瀬、太田代(唐澤)、大内田、瀧本、松島、土居、安達、安岡、広瀬、善如 以上、24 名

委任状(敬称略)：青木、秋本、細江、瀧井、田中、松波、洪澤、中山、大森、森保、松浦、林田、石川、伊ヶ崎、中村、池下、以上、16 名

開催校の安岡実行委員長より挨拶が行われた。

続いて長岡会長より挨拶後、議事に入った。

議題

1. 新入会員・退会会員承認（資料1）

常務理事（事務局担当）の野崎氏より資料に基づき、新入会者19名、シニア会員1名、退会者5名が報告されたが、新入会員の承認について確認があり、被紹介者も紹介者も双方、院生会員となっている1件については、今回の承認を保留となった。また、院生会員は紹介者にはなれないことが確認され、申込書にもその旨を記載することとなった。結果、会員数は、入会者18名、シニア会員1名、退会者5名が報告され、会員総数が583名となることが了承された。

2. 編集委員会報告（資料2）

大住編集委員長より資料2に基づき、報告が行われ、投稿促進の協力依頼が行われた。採択になっている論文の編集状況について確認があり、3月に発刊されて以降に採択されたことを意味する旨の回答があった。

3. 国際交流の件（実績報告）（資料3）

大坂委員長より資料3に基づき、報告が行われた。韓国応用経済学会から今回の訪問が無いことと、今後に交流についての質問があった。今回の訪問がないことについて、先方から事務局に理由が示されていなかったため、次回以降については、今のところ、不明であるとの回答が委員長より行われた。

4. 2024年度学会賞選考スケジュール（案）（資料4）

小川委員長より、資料に基づき学会賞の選考スケジュールについて説明があり、承認された。

5. 日本応用経済学会企画委員会規約（案）について（資料5）

内藤常務理事より、学会プログラム作成、開催校の決定、その他について企画委員会が担当することになったことに伴い、規約案の作成を行ったことが説明され、企画委員会で承認を取る予定であることが説明された。また、規約案の概要について説明が行われた。

第5条について質問があり、委員長は、総務担当の常務理事2名の中から会長がどちらかを委員長として指名するという主旨であることの回答が行われた。なお、文面については、必要に応じて修正があり得るが、規約案について承認された。

6. 会員の住所、メールアドレスの更新調査の実施

事務局より近年、登録しているアドレスに送信しても戻ってくるケース、住所が変更されて、尋ね先の転居不明で戻ってくる数が増えてきていることが説明され、プログラム作成等にも必要なものなので、名簿整理のために、一度、調査を行いたいことが提案された。

不明者については紹介者等に問い合わせるなどできないかという質問があり、事務局が紹介者に問い合わせできるものについては、問い合わせたいと回答があった。調査を進めることで承認された。

7. 次期編集委員会について

長岡会長より次期編集委員長として、現委員長の大住康之先生、次期副委員長に、現副委員長の大内田康德先生、増田淳矢先生の提案があり、承認された。

8. 2025年度春季大会について

長岡会長より、2025年度春季大会を兵庫県立大

学に内諾を得られていることの説明があり、次年度は学会の創立 20 周年にあたることから、創立 20 周年記念大会として開催したい旨の提案が行われた。この提案が承認され、その後、開催校を代表して大住氏より挨拶が行われた。

日程について質問があり、予定だが、6 月 7 日（土）、8 日（日）で進めている旨の回答があった。

9. その他
特になし。

報告

1. その他
特になし。

最後に新任の理事より挨拶が行われた。

以上をもって、理事会は終了した。

II-2. 2025 年度第 1 回理事会報告

日時：2025 年 6 月 7 日（土） 10 時 40 分～12 時 03 分

会場：兵庫県立大学神戸商科キャンパス 教育棟 II202 教室

出席者（敬称略）：長岡、木原、福重、成生、大住、大坂、小川光、内藤、野崎、坂上、三浦、宮澤、大森、柳瀬、太田代（唐澤）、大内田、松浦、松島、伊ヶ崎、土居、安岡、池下、広瀬、森田、以上、24 名

委任状（敬称略）：永星、藤田、秋本、細江、瀧井、松波、渋谷、渡辺、中山、堀、森保、瀧本、石川、安達、中村、以上、16 名

オブザーバー（敬称略）：小川健、以上、1 名

理事会開催に先立ち、木原副会長が司会として挨拶が行われた。続いて、開催校挨拶が大住大会実行委員長より挨拶が行われた。

その後、長岡会長に議長として、議事に入った。最初に長岡会長より挨拶が行われた。

議題

1. 新入会員・退会員承認（資料 1）

常務理事（事務局担当）の野崎氏より資料 1 に基づいて、入会者 17 名、退会者 3 名についての説明が行われ、これらについて承認された。

2. 令和 6 年度会計報告（資料 2）

常務理事（財務担当）の野崎氏より資料 2 に基づき、令和 6 年度の会計報告が行われた。その後、監事の森田氏より会計監査報告が行われ、適正かつ正確に処理されていることが説明された。審議の結果、承認された。

3. 令和 7 年度予算（案）（資料 3）

常務理事（財務担当）の野崎氏より資料 3 に基づき、令和 7 年度予算案について説明があり、学会誌は、18 巻の手直しにより、支払いが年度を超えたため、それを含んだ 2 巻分、PDF ファイル代が含まれていることが説明された、また、今年度、創立 20 周年記念事業費として 50 万円を計上していることが説明された。審議の結果、承認された。

4. 編集委員会報告（資料 4）

大住康之学会誌編集委員会委員長より資料 4 に基づき、投稿状況について説明が行われた。査読の状況について質問があり、査読のスピードが大事になるので、編集委員会から催促を促す

ようにする旨の回答が編集委員長より行われた。また、現在採択されている論文の学会誌への掲載について確認があり、大住委員長より、2025年3月に発刊された分から、新規採択が無い状態であることの説明があり、投稿者が少ないので、協力の依頼があった。

レフェリーからの返事が遅い場合は、以前のように編集委員長の判断でどんどん進めていってよいと思われる旨の意見が出された。大住編集委員長からは、今の助言を踏まえて進めたい旨の回答があった。また、レフェリー用のガイダンスについて確認があり、担当の副委員長を通じて、連絡しているが、もう少しスピードを速めて判断をしていきたいと大住編集委員長より回答された。

5. 学会賞選考委員会報告（資料5）

小川光学会賞選考委員会委員長より、2024年度学会賞の授賞について、報告が行われ、学会賞は玉井寿樹氏（名古屋大学）、選出された旨の報告があった。

選考委員会での審査の際、審査対象者と委員の関係性から1名が選考審査を辞退している旨が説明された。選考委員による選考の辞退に関する特に明示的なルールがないことから、今後のために利害関係者にあると思われる場合は、辞退した方がよいのではないかという趣旨で申し合わせを提案する旨の説明と、その内容説明が行われた。審議の結果、申し合わせについて承認され、来年度からは、この申し合わせを審査委員に配布することとなった。

続いて、著作賞に林正義氏（東京大学）、奨励賞に牧野佑哉氏（東京大学大学院）が選出された旨が説明された。奨励賞についても、選考委員の1名が利害関係にあると判断されたため辞退されている旨の説明が行われた。審議の結果、各賞の授賞者について承認された。

6. 国際交流委員会報告（資料6）

大坂仁国際交流委員会委員長より資料6に基づき、実績報告の説明が行われ、昨年度の秋季大会は、韓国応用経済学会の都合で派遣者がいなかったこと。昨年度秋の韓国通商経済学会への大会に日本応用経済学会から2名の派遣があったこと。創立20周年記念大会に韓国通商経済学会から4名の方が来日されていることが説明された。

7. 韓国応用経済学会との交流一時停止について

長岡会長より、韓国応用経済学会会長より予算の都合で交流の一時停止の申し出があり、その申し出について、国際交流委員会で検討した通り、交流の一時停止の返事を出したことの説明が改めて行われた。その際、早期再開したいことも含めて返事していることが説明された。議題6、7については一括で承認された。

8. 規則改正について（資料7）

常務理事（事務局担当）の野崎氏より、以前から出ていた、各規程の整備が出ていたため、常務理事会で審議し、今回、理事会に、「学会賞に関する規定」、「日本応用経済学会賞選考に関する細則」、「日本応用経済学会国際交流委員会規約、協定海外学術団体との交流事業に関する細則、日本応用経済学会国際交流費細則、日本応用経済学会学会誌編集委員会規定について説明が行われた。承認頂ける場合、施行日については、2025年6月8日としたいことが提案された。

「日本応用経済学会賞選考に関する細則」の第2条について質問があり、詳細については別に定めるは、先ほどの「2024年度学会賞の選考に係る「利害関係者の排除」の申し合わせ」で

あるかについて質問があり、その通りであることが野崎氏より回答された。審議の結果、承認された。

9. 創立20周年記念大会事業について

企画委員会幹事の内藤常務理事より、20周年記念事業として、岡崎哲二先生の招待講演が行われること、現在のロゴを作り直し、作成を業者に依頼し、それをもとにして、背面パネルを作成し、大会の受付に設置することの説明が行われた。学会誌の記念号の発刊を相談しながら進めていく予定であることが説明された。

長岡会長から事業内容のうち、特集号について補足説明が行われた。応用経済学研究は発刊してから2年後の公開で勁草書房との契約になっているが、特集号については、もうちょっと早くできないかと考えているが、それについては勁草書房との協議になるだろうという検討事項である旨が常務理事会で指摘されたことも含めて説明が行われた。

また、長岡会長より、記念事業については企画委員会で検討頂いているので、明日開催される企画委員会にてさらに具体的に検討して頂くことの発言があった。予算は50万円としているが、もし、足りない場合、必要ならば、予備費をつかうことがあるかもしれないことが付言され、了承された。

10. 令和7年度秋季大会について

常務理事（総務・企画担当）の内藤氏より、議題10から12まで説明が行われた。

秋季大会の開催校の変更とその経緯について説明があった。春季大会の日程は11月8日、9日で変更なく、開催校が北九州市立大学、実行委員長に田中淳平氏に就任頂いたことの説明があった。

11. 令和7年度秋季大会プログラム委員長について

秋季大会のプログラム委員長に拓殖大学の丹野忠晋氏に内諾頂いている旨の説明があった。

12. 令和8年度の大会開催について（別紙資料）

来年度の春季大会は今のところ、6月の第1週、または第2週で東北学院大学での開催で調整しており、開催の場合は、倉田洋氏に大会実行委員長を内諾頂いていることが説明された。また、秋季大会は、専修大学にて11月14日、15日での開催の可否について打診中であり、開催可能な場合は、小川健氏に大会実行委員長の内諾を頂いていること、プログラム委員長は来年度の春季大会で決定予定であることが説明された。また、来年度の秋季大会については、本日オブザーバー参加している小川先生より状況説明頂くことになっていることも説明された。

小川氏より挨拶があり、状況について別紙資料に基づき、現在、学内で調整中となっており、まだ、開催確定ではないことが説明された。現段階の状況についての意見や助言があった。開催引き受けの可否の確定時期について質問があり、今年中には決定すると思われるとの回答があった。場合によっては、今年度と同じ状況が起こりうることを想定しておく必要があるだろうとの発言があり、11月の企画委員会までに決まっていると有難いとの意見が出された。

他に、次年度春季大会の開催校が相談したいことがあるようだと発言があり、この件については、明日の企画委員会で開催校に聞くこととなった。

13. その他

特に議題はなかった。

報告

1. 西日本支部大会について（当日配布）

西日本支部幹事の池下研一郎氏より、支部大会についての報告が行われた。また、予算について、予算措置がないため、会場費がかからない大学で実施しているが、最近は、会場費を徴収する大学が増えている。会場費について予算措置を希望したい旨の発言があった。

会場費については様々なことが想定されるので、学会としてルール作りが必要だろうとの意見が出されこれについては、今後、常務理事会等で話し合う必要があると思われるので、今後の検討事項として頂きたいとの要望があった。また、複数の委員から、事例や想定される問題の紹介や意見があった。長岡会長よりいろいろなケースがあると思われるので、リサーチして検討し、次回、検討していきたい旨の発言があった。

2. その他

応用経済学研究第18巻について、手直しが入ったため、送付が遅れていることが事務局より報告された。

長岡会長より、議事が終了したことが宣言され、理事会は終了した。

III. 学会誌『応用経済学研究』編集委員会報告

編集委員会委員長

大住康之（兵庫県立大学）

2024年11月以降、2本の投稿があり、審査中が1本、取り下げが1本なされました。なお、2024年1月から2024年10月のものについては、採択が2本、審査中が4本、不採択が3本となっております。2025年3月に『応用経済学研究』第18巻が勁草書房より出版され、5本が掲載されました。皆

様の投稿をお待ちしております。

IV. 2024年度学会賞について

学会賞選考委員長

小川 光（東京大学教授）

2024年度学会賞、奨励賞の選考については、15名の選考委員、著作賞については宮澤和俊先生（委員長）、木原隆司先生及び、大野裕之先生にご協力を頂き、以下の結果となりました。

学会賞

玉井 寿樹氏（名古屋大学）

（受賞理由）

玉井氏は、マクロ動学理論を用いた公共経済政策および租税競争理論の2つの領域において、多くの国際的な学術業績を挙げている。近年では、行動経済学的要素を考慮し、標準的なラムゼールールの修正に取り組むなど、マクロ動学と行動経済学を融合させた新たな研究領域の開拓に果敢に挑戦している。

2022年からの3年間だけでも、Journal of Population Economics、Journal of Public Economic Theory、European Journal of Political Economy など、7本の国際学術雑誌に研究成果を発表しており、学会賞の規定第3条「応用経済学分野において優れた業績」に該当する研究成果を数多く生み出してきた。

これらの功績を高く評価し、玉井氏が応用経済学会・学会賞にふさわしい研究者であると考え、本賞を授与する。

著作賞

林 正義氏（東京大学）

著書「税制と経済学：その言説に根拠はあるのか」

(受賞理由)

審査委員が共通して高く評価しているのは、一般の読者に向けた啓蒙書であると同時に、財政の専門家にとっての研究書であり、また、これから財政の研究を始める大学院生にとっての教科書となり得るという点である。

構成についても工夫が見られる。最初に税制に関する「言説」を紹介することで、税についての関心を引き起こす。次に、実際の制度やデータにもとづいて経済学のロジックを用いて言説の正当性を明らかにする。また、内外の研究が豊富に紹介されており、信頼できる論理が展開されている点も評価できる。

奨励賞

牧野 佑哉氏（東京大学大学院）

論文「防災情報認知の実証分析－水防法改正の地価への影響－」

応用経済学研究, 第 18 巻

(受賞理由)

本論文は、平成 27 年の水防法改正による浸水想定の変更が地価に与える影響を差の差分析とイベントスタディによって明らかにする研究であり、単なるリスクと地価の相関ではなく、災害リスク情報が地価に浸透する過程を明らかにする点が特に優れている。対照群の選定に細心の注意を払い、処置群からの需要流出の影響を排除することで推定の信頼性を高め、被災経験やその他の要因を除外して時間的影響を特定した点も優れたアイデアを提示した研究として評価できる。堅実な分析手法と結果の頑健性に優れた政策実証研究であり、今後の発展を大いに期待できる研究として、牧野氏に対して本学会奨励賞を授与する。

V. 国際交流委員会報告

国際交流委員会委員長
大坂仁（京都産業大学）

国際交流委員会から韓国の 2 つの学会との交流につき報告する。

1. KAAE（韓国応用経済学会）との交流

KAAE（韓国応用経済学会）から、2024 年度秋季大会（関西学院大学）への派遣を行わない旨の連絡があり、この大会において派遣報告を通じた交流は行われなかった。なお、その後も KAAE からの連絡によって、一時的な交流停止が継続される状況となっているが、早期の交流活動の再開が望まれる。

2. KEBA（韓国経済通商学会）との交流

本年度も KEBA（韓国経済通商学会）と相互に派遣報告者の交流があり、活発に活動が行われた。まず、本学会から KEBA への派遣報告者として、2024 年 11 月 29 日（金）に昌原市で開催された KEBA 年次大会(Kyungnam University)に、倉田洋先生（東北学院大学）と入江政昭先生（福岡市役所）の 2 名が参加された。

また、本学会創立 20 周年記念大会が 2025 年 6 月 7 日（土）から 6 月 8 日（日）に兵庫県立大学で開催される際に、KEBA より Chul-Hi Park 先生（Gwangju National University of Education）、Ki-Dong Lee 先生（Keimyung University）、Chanyoung Lee 先生（Chonnam National University）、および Yoonmin Kim 先生（Keimyung University）の 4 名が派遣される予定である。

VI. 学会誌『Studies in Applied Economics 応用経済学研究』への投稿について

編集委員会報告にもありましたように、会員の皆様からの学会誌の投稿をお待ちしております。投稿は随時可能です。投稿規程等については学会Webサイトにてご確認ください。

VII. 紹介！研究室

今回は、田中淳平先生(北九州市立大学)より研究と教育についての観点からお話を伺いました。



研究について：マクロ経済学の様々なトピックス（バブル経済、財政金融政策、二重労働市場など）に関心がありますが、最近では主流派経済学を相対化するような視点に立った概論書の執筆に取り組んでいます。私はかねてから、1つの学派的枠内で問題を深く掘り下げることも、学派的枠を超えて経済学のあり方を俯瞰することに興味がありました。経済学に出会って30年あまりが経ち、ようやく自分自身で納得のいく俯瞰的視座を確立できつつある気がしています。現在執筆中の概論書はそうした問題意識を具現化したもので、近い将来にその成果を上梓できればと意気込んでいます。

教育について：入門的な経済学を自分なりに噛み砕いて教えるのが大好きで、もう20年以上のキャリアになりますが、未だに飽きることがありません。一方で、ゼミの指導に関しては思い通りにいかないことが多く、「教える側だけが頑張っても仕方ない」と自分に言い訳をすること

もしばしばですが、それでも教育意欲が低下しないのは、教育成果に対する評価が緩やかで、気楽にいろんな試行錯誤ができるからかもしれません。大学の先生は研究者タイプと教育者タイプに分かれると思いますが、私ははっきり後者なので、定年まで教育意欲が枯渇しないように努めることが今後の最重要課題です。

北九州市立大学経済学部
教授 田中淳平

VIII. 編集後記

私自身が大会実行委員長を務めました2024年度の秋季大会を終え、そして、学会創立20周年記念として2025年度の春季大会を終え、日本応用経済学会は新たな歴史を歩み、2025年度の秋季大会を北九州市立大学にて開催します。これまで2つの大会にて大会実行委員を務めてきましたが、大会実行委員として参加する学会はまた感慨深いものがあります。研究発表や論文討論などに加え、運営の仕事も加わることになるのですが、研究発表や討論については当日のその場が仕事になる一方で、運営となりますと、主として、その開催日までが仕事になります。開催日を迎え、無事受付が始まると、安心をするわけです。もちろん、学会開催中のトラブルも可能性はありますが、幸いにも学会員みなさまのおかげでトラブルもなく、学会開催日の日こそ休める？という状況を振り返ってみて思いました。そして、裏方作業をして思いますのは本当に学会の運営は多くの方々のご協力の上に成り立っていると思いました。

そして、次の学会である2025年度秋季大会は北九州市立大学で開催されます。私の前任校であり、懐かしさもありますが、初心に戻る気持ちで学会に参加したいと思います。

まだまだ暑い日が続くと思いますが、どうか

みなさまにおかれましてはご体調を第一にされて欲しいと思います。

安岡 匡也（関西学院大学）

令和6年度 日本応用経済学会 会計報告
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	13,711,029	13,711,029	0
会費収入	3,950,000	3,705,000	-245,000
学会誌収入	0	0	0
利子収入	1	131	130
開催補助費返還分	0	174,663	174,663
(収入小計)	3,950,001	3,879,794	-70,207
合計	17,661,030	17,590,823	-70,207

現金・預金残高

令和6年度期首	小計
ゆうちょ事務センター	12,897,371
ゆうちょ口座	236,181
福岡銀行	46,036
現金	531,441
期首繰越額	13,711,029

令和6年度期末	小計
ゆうちょ事務センター	12,803,871
ゆうちょ口座	898,267
福岡銀行	154,086
現金	276,367
期末繰越	14,132,591

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	150,000	126,610	23,390
消耗品費	70,000	81,911	-11,911
事務補助費	500,000	205,760	294,240
学会開催補助費	800,000	800,000	0
理事会開催補助費	120,000	90,611	29,389
各種委員会開催費	50,000	24,793	25,207
シンポジウム等補助金	200,000	77,000	123,000
学会賞	90,000	50,600	39,400
国際交流費	400,000	307,615	92,385
払込手数料	75,000	60,023	14,977
学会誌購入	3,600,000	1,598,300	2,001,700
学会webサイト運営費	30,000	32,633	-2,633
雑費	20,000	2,376	17,624
小計	6,105,000	3,458,232	2,646,768
繰越金	11,556,030	14,132,591	-2,576,561
合計	17,661,030	17,590,823	70,207

上記の通り報告致します。

常務理事(財務担当)

野崎 竜太郎

会計担当幹事

池下 研一郎

監査の結果、上記相違ありません。

監 事

森田 充

令和7年度 日本応用経済学会 予算
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	11,607,009	
会費収入	3,950,000	(10,000円×380人)+(5,000円×30人)
利子収入	1	
学会誌収入	0	
(R5収入小計)	3,950,001	
合計	15,557,010	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	150,000	
消耗品費	50,000	
事務補助費	500,000	事務補助員アルバイト代(2万円×10ヶ月)及び旅費(8万×2)400,000円とその他アルバイト代
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
理事会開催補助費	120,000	60,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	200,000	
学会賞	90,000	
国際交流費	300,000	4名2泊(秋季大会)、2人2泊宿泊費(秋季大会1回分)
払込手数料	75,000	
学会誌購入	3,800,000	2巻発行予定分、および18巻PDF代
学会webサイト運営費	30,000	
雑費	20,000	
学会誌Web化費用	200,000	
小計	6,385,000	
予備費	9,172,010	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	15,557,010	